

学生の確保の見通し等を記載した書類

目 次

(1) 新設組織の概要	p. 1
①新設組織の概要（名称、入学定員（編入学定員）、収容定員、所在地）	
②新設組織の特色	
(2) 人材需要の社会的な動向等	p. 1
①新設組織で養成する人材の全国的、地域的、社会的動向の分析	
②中長期的な18歳人口等入学対象人口の全国的、地域的動向の分析	
③新設組織の主な学生募集地域	
④既設組織の定員充足の状況	
(3) 学生の確保の見通し	p. 5
①学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果	
ア 既設組織における取組とその目標	
イ 新設組織における取組とその目標	
ウ 当該取組の実績の分析結果に基づく、新設組織での入学者の見込み数	
②競合校の状況分析（立地条件、養成人材、教育内容と方法の類似性と定員充足状況）	
③先行事例分析	
④学生確保に関するアンケート調査	
⑤人材需要に関するアンケート調査等	
(4) 新設組織の定員設定の理由	p. 11

(1) 新設組織の概要

① 新設組織の概要

新設組織	入学定員	4年次編入学定員	収容定員	所在地
創造工学科 ものづくりコース	40 (40)	若干名	200	愛媛県越智郡上島町 弓削下弓削 1000
情報工学科 知能情報コース	40 (20)	若干名	200	
情報通信コース	(20)			

② 新設組織の特色

創造工学科(ものづくりコース)はMCCにおける機械系と情報系の複合学科とし、製造分野で求められるハードウェアの特性・設計・製作に加え、現場及び製品をDX化するためのコンピュータ・ソフトウェアの設計・開発にも対応できる人材を育成する。データサイエンスなどの情報系科目を適切に配置することで、MCC+数理・データサイエンスに準拠する。また、機械系科目のICT対応によりMCC+ロボティクス(機械設計)、IoTに準拠するなど、機械系分野における高度情報技術者の育成に対応する。

情報工学科(知能情報コース、情報通信コース)は、MCCにおける情報系の内容に加え、高度情報(AI、ネットワーク、サイバーセキュリティ)の内容を加えた情報系専門学科とする。情報工学科では各コース間で定められた科目を選択によって学生自らがコースを選択できる。また、商船学科、創造工学科の基礎科目についても、履修プログラムを設定して選択科目として受講可能とし、幅広い知見を持つ技術者を育成する。

(2) 人材需要の社会的な動向等

① 新設組織で養成する人材の全国的、地域的、社会的動向の分析

総務省国勢調査に基づく2020年度の人口ピラミッド(図1)によれば低年齢人口の減少が顕著である。2024年4月1日現在における子供の数(15歳未満人口)は1401万人で、43年連続の現象となっている。また子供の割合も11.3%で、50年連続の低下である。2022年の人口推計からも少子高齢化は急速に進行することは明らかであり、教育を充実させ、より社会に役立つ人材を育成することが重要である。

高専は、中学卒業後からの人材を実践的技術者として早期に育成するための高等教育機関であり、社会に優位な人材を育成できる特徴が評価されている。海外での高専の設置、国内における新規の高専設立などがその証左といえる。産業構造においても、DX人材を中心とした技術者養成が求められており、高専に対する期待は高い。高専全体での学生募集について、安定して推移することが期待できる。

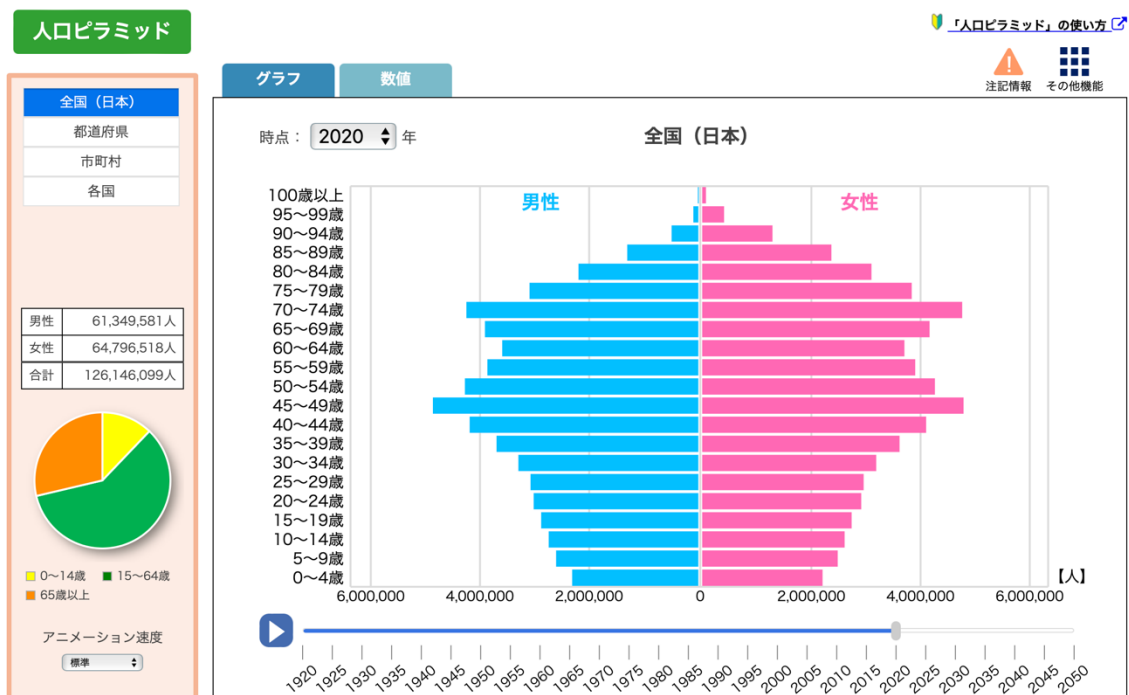


図1 年代別人口推移(2020)

② 中長期的な15歳人口等入学対象人口の全国的、地域的動向の分析

都道府県別の人口増減(図2)によれば、人口増加は東京都他一部となっており、都市圏への一極集中が課題となっていることがわかる。実践的技術者を輩出する高専卒業者の多くは、大都市への就職となり、構造的な課題を解消することができない。愛媛県では、UターンやIターンなど、地元への人材流入を目指して、愛媛県デジタル人材育成推進会議を設置し、大学などと検討を行っている。人材育成は一定数達成できつつあるが、地元への定着はまだ困難な状況にある。コロナ後のIT関連企業を中心としたリモートワークの流れなど、働き方やQOLに対する意識の変化もあり、教育機関として学科改組による魅力ある学科作りによって対応しなければならない。高専出身の保護者に地元高専への進学を働きかけるなど、新たな対策も模索する必要がある。リモートワーク、サテライトオフィスの普及、ベンチャーなど、今後、地元への就職が進み、地域からの入学者数が増えることが期待される。

③ 新設組織の主な学生募集地域

本学の出身学校の都道府県別学生数(図3)では、商船学科が全国から広く入学しているのに対し、工業系2学科は愛媛県(今治市)・広島県(尾道市・福山市)に集中している(図4)。この傾向は改組後の新学科においても同様であると予想する。

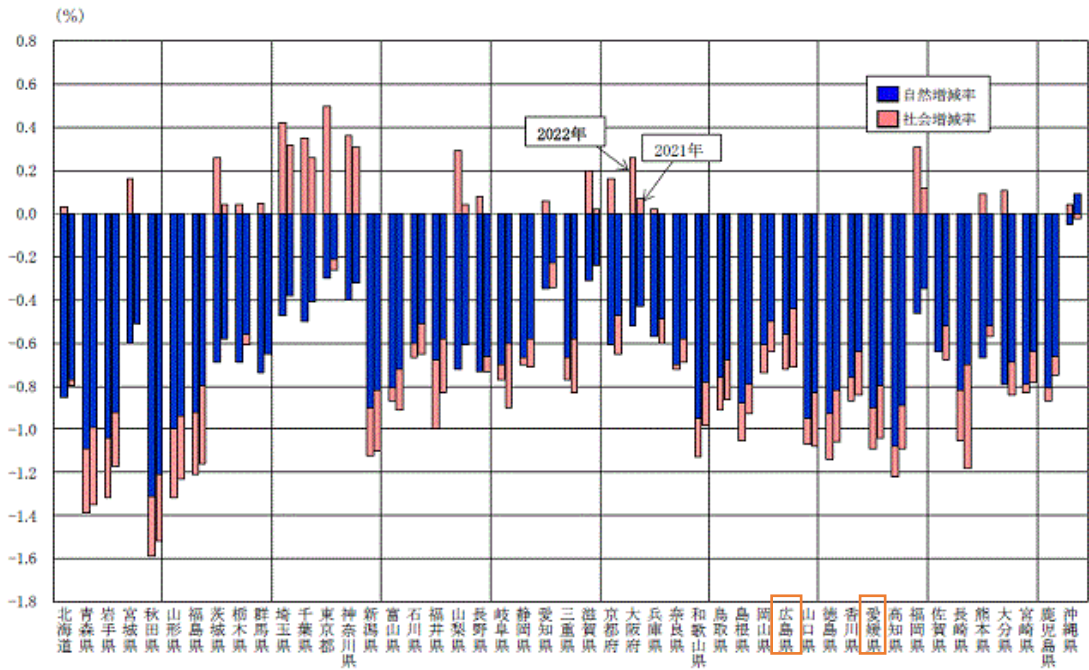


図2 都道府県別人口の増減要因（総務省統計局HPより）

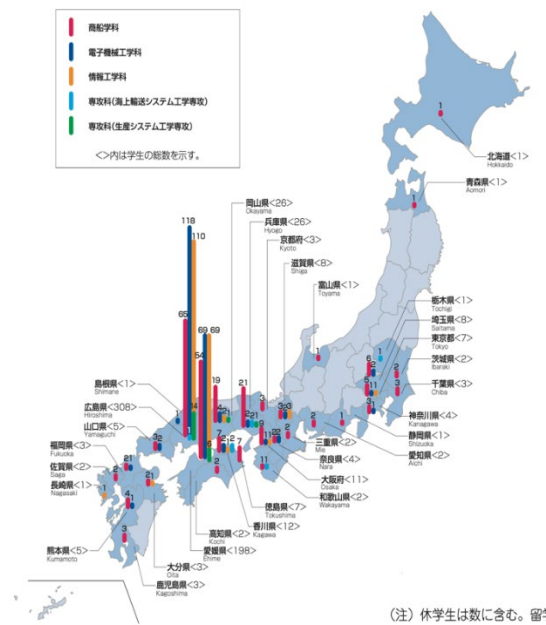


図3 令和6年度地域別志願者数

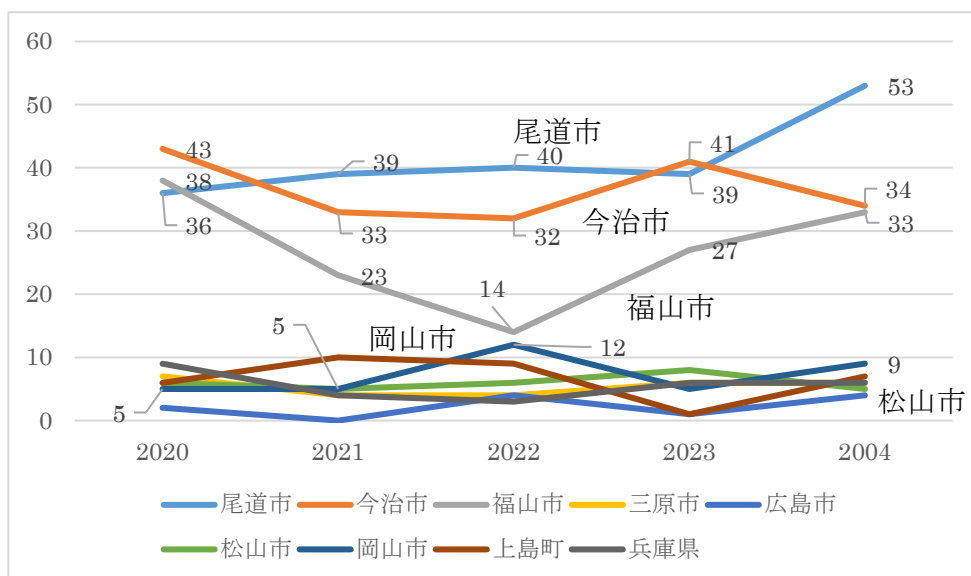


図4 近隣市町村からの志願者数推移

④ 既設組織の定員充足の状況

創造工学科（ものづくりコース）、情報工学科（知能情報コース、情報通信コース）を新設する電子機械工学科・情報工学科の過去5年間の入試志願者倍率は1.3～2.1倍で推移している（表1）。令和3年度に安定的な定員確保を行うために推薦枠を7割から8割へと拡充してからは、志願者数も推薦志願者数も増加傾向にある。

表1 過去5年間の志願状況（入学定員40+40）（ ）は女子で内数

年度	学科名	志願者数	(内数) 推薦	合格者数	入学者数			志願 倍率
					学力	推薦	計	
令和6	電子機械工学科	56(2)	28(1)	44(2)	16(0)	24(1)	40(1)	1.4
	情報工学科	76(28)	55(23)	56(22)	7(4)	33(16)	40(20)	1.9
	計	132(30)	83(24)	100(24)	23(4)	57(17)	80(21)	1.6
令和5	電子機械工学科	64(4)	26(2)	58(4)	22(1)	24(2)	46(3)	1.6
	情報工学科	64(14)	45(10)	52(12)	12(0)	31(10)	43(10)	1.6
	計	128(18)	71(12)	110(16)	34(1)	55(12)	89(13)	1.6
令和4	電子機械工学科	51(3)	26(1)	46(3)	22(2)	21(1)	43(3)	1.3
	情報工学科	71(32)	55(27)	51(24)	8(0)	32(21)	40(21)	1.8
	計	122(34)	81(28)	97(27)	30(2)	53(22)	83(24)	1.5
令和3	電子機械工学科	55(6)	25(2)	47(6)	21(3)	23(2)	44(5)	1.4
	情報工学科	67(23)	38(14)	50(19)	15(1)	29(14)	44(15)	1.7
	計	122(29)	63(14)	97(25)	36(4)	52(16)	88(20)	1.5
令和2	電子機械工学科	85(3)	31(2)	56(3)	19(0)	24(2)	43(2)	2.1
	情報工学科	67(25)	29(14)	52(23)	17(6)	26(13)	43(19)	1.7
	計	152(28)	60(14)	108(26)	36(6)	50(15)	86(21)	1.9

(3) 学生の確保の見通し

① 学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

ア 既設組織における取組とその目標

現行の電子機械工学科は、機械・電子・ものづくり分野、情報工学科はコンピュータ・ものづくり応用分野で、それぞれ実践力と想像力を備えた高度技術者の育成を目指している。学生募集においては、広報主事（副校長）の計画の下、募集対策（表2）を行っており、中学校校長を定年退職した3名を特任教授として採用し、本校教員と共に年間約160校、300回前後の中学校訪問を実施している。県境にある特徴を活かし、愛媛県、広島県、岡山県などに幅広く訪問している。オープンキャンパスは、7月と11月の2回実施していたが、令和3年度から始めたリモートオープンキャンパスでは、質疑応答の時間を長く設け、遠方からでも入学後の不安を取り除ける工夫を行っている。また、令和6年度から、参加者増の影響から第1回（7月）のオープンキャンパスを学科毎（①商船学科、②電子機械工学科、③情報工学科）に2週に分けて実施する。

これまで近隣小中学校への出前授業・公開講座としてプログラミング講座などを行ってきただけでなく、地域や教育委員会と連携して、学生を地域創生活動に参加させている。代表的な地域創生としては、高齢者向けスマホ教室、福祉施設での車いすによる散歩、小学校での放課後勉強支援がある。今年度、新たな取り組みとして、学生が持つプログラミング技術を小学生へ教える「プログラミング学生講座」を実施予定である。小学校教員と学力向上の議論の機会から提案され、地元小学校での実施を試みる。今後、このような活動を県内外の小中学校へ展開し、児童・生徒の理工系推進に貢献し、アドミッション・ポリシーの適合度の高い学生確保につなげる。

表2 学生募集の取り組み

年度	R6 (2024)	R5 (2023)	R4 (2022)	R3 (2021)	R2 (2020)	R1 (2019)
オープンキャンパス						
実施回数	3	3	3	3	2	3
参加者数	139	135	131	107	49	105
商船学科	77	78	92	81	38	88
電子機械工学科	167	160	153	143	61	108
情報工学科	139	135	131	107	49	105
区分なし	40	40	64	54	167	77
合計	423	413	440	385	315	378
中学校訪問						
訪問回数 (延べ)	-	352	275	327	338	309
中学校数	-	168	153	168	190	162
高校説明会参加校数	-	30	30	23	28	25
出前授業						
商船系	-	1	12	12	2	7
情報系	-	7	8	6	1	3
その他	-	0	0	6	7	5
合計	-	8	20	24	10	15

イ 新設組織における取組とその目標

電子機械工学科は、日本におけるものづくりの根幹を支える機械系技術者を養成する学科として、関連企業から多くの求人がある産業界から期待される学科である。一方で、入学志願者からは「機械ばなれ」の意識から、志願者の伸び悩みが長期的な課題となっている。またITによるものづくりなど情報工学科との類似性も多くなり、学生募集における差別化が難しい状況にある。

先行事例では工業系を1学科複数コースに改組するものが多く見られるが、コース分けやアドミッション・ポリシー、カリキュラムなどを総合的に検討し、2学科3コースとして、従来の学科の特徴を残しつつ、IT、DXに対応できる改組とした。電子機械工学科をロボティクス及びDX人材養成に対応する創造工学科に、旧・情報工学科をAIやサイバーセキュリティなどの情報系人材養成に対応する新・情報工学科とし、カリキュラム上での連携を強化している。コース選択については、推薦選抜を優先しつつ、相談指導を入念に行いミスマッチがないように配慮する。

ウ 当該取組の実績の分析結果に基づく、新設組織での入学者の見込み数

創造工学科（ものづくりコース）、情報工学科（知能情報コース、情報通信コース）を新設する電子機械工学科・情報工学科の過去5年間の入試志願者倍率は1.3～2.1倍

で推移している。令和3年度に安定的な定員確保を行うために推薦枠を7割から8割へと拡充してからは、志願者数も推薦志願者数も増加傾向にある。創造工学科への改組によってアドミッション・ポリシーに対応した学生を確保できることが期待される。一方で、情報工学科の推薦志願者は安定して増加傾向にあるため、引き続き情報系志向の志願者の確保が期待できる。以上の点から、新学科による志願者確保は従来通りで推移しながら、DX人材への社会的要請に応じて増加することが期待される。

② 競合校の状況分析（立地条件、養成人材、教育内容と方法の類似性と定員充足状況）

本学は、瀬戸内海の中央部に位置する、しまなみ海道沿線の離島にある。本学に来るには、しまなみ海道から、フェリーによって島に渡ることが必要であり、交通の利便性は不利な場所にある。その反面、自然に恵まれた地域は学習に恵まれているとも言える。

工業高校・総合技術高校は、高専と学校種が異なるため、直接的な競合関係にはなく、高専は5年間一貫の高等教育機関であることが長所として棲み分けがされている。

多くの中学生は、大学進学を目指して普通高校に進学するため、高専との直接的な競合関係にあるとは言えないが、早期専門教育が可能な高等教育機関であること、工業系大学への編入学などのメリットを伝えることで、高専のアピールを継続している。

中国・四国地域には、それぞれ8、6校の高専があり、学生募集においては、広島・愛媛・岡山が競合するエリアとなる。いずれの高専にも機械系、情報系学科がある。また、瀬戸内には商船系高専が3校（大島商船高専、広島商船高専、弓削商船高専）あり、相互に連携をとっている。学科構成も商船系1学科、工業系2学科（機械系・情報系）と似通っている。このことから、商船学科では3校による複数校受験制度が導入されており、1回の受験で、いずれかの高専を希望することができる。

一方、工業系学科では全国高専との差別化を進めなければ学生を確保することが難しい。学校全体の取り組みとして掲げている「離島工学：島で起きた問題を島の資源や人材を活用して、島の中で解決する技術」を実践することにより、本校独自のPBLや教育研究活動を行うことで差別化がなされている。さらに情報工学科は、高専プログラミングコンテストをはじめとする多くの大会で優秀な成績を収める強豪校として認知されており、学校PRでは学生による体験談が好評であり、中学生、保護者、新入生からも高い評価が得られている。

IT人材育成の要請や情報工学科の従来の取り組みをベースとして、電子機械工学科をDX・ロボティクス（機械設計）、IoTに対応できる機械系人材を養成する創造工学科に、AIやサイバーセキュリティ対応できる情報系人材を養成する新・情報工学科に改組することで、本校の特徴を伸ばし、他高専と異なる学科とし

てカリキュラムを設定した。

各コースで設定した履修プログラムを履修することで、学生が学科・コースの枠を超えてキャリアデザインを設計できる機会を提供している。

③ 先行事例分析

本学の近隣の広島商船高等専門学校や、同じく商船系高専の鳥羽商船高等専門学校では、工業系2学科を1学科複数コースに再編する学科改組を行っている。いずれも、学生人口の減少による志願者減の対応のため、特色や機能（教育・研究）を見直し、独自性ある取り組みを加えるなど、社会に求められる人材像を意識した改革を行っている。

本学は、広島商船高専と商船学科、電子機械工学科で複数校受験を実施しているが、工業系2学科の改組に伴い、各校が独自に学生募集対策を行うべき変革点にある。各校の特色や学校が提供する機能（教育・研究）を見直し、離島工学を履修プログラムに据えるなどの本学の独自性を取り組みに加えている。

一方、1学科複数コースを設定した組織では、コース配属で希望するコースに配属できないことによるミスマッチが指摘されている。本学は、2学科体制を維持することに加え、推薦選抜の学生はコース配属を保証することで、不安を無くすよう配慮した。コースごとに履修プログラムを設置し、他コースのプログラムも選択可能とすることで、多様なキャリアデザインに対応している。

④ 学生確保に関するアンケート調査

令和6年1月に、近隣中学校・在校生に対してアンケートを実施した（図5、6）。中学生・在校生へのアンケート（設問：「あなたは各コースの提供する内容を選択したいと考えますか。」）では、各コースに対して過半数以上興味があると回答している。令和6年度には推薦83名（学力と併せて132名）の志願者があること、情報系に興味がある志願者が多数を占めることから、高度情報人材育成に対応した創造工学科（ものづくりコース）、情報工学科（知能情報コース、情報通信コース）に改組することで、既存組織以上の学生を集めることは十分可能である。

中学生の新コースへの期待度

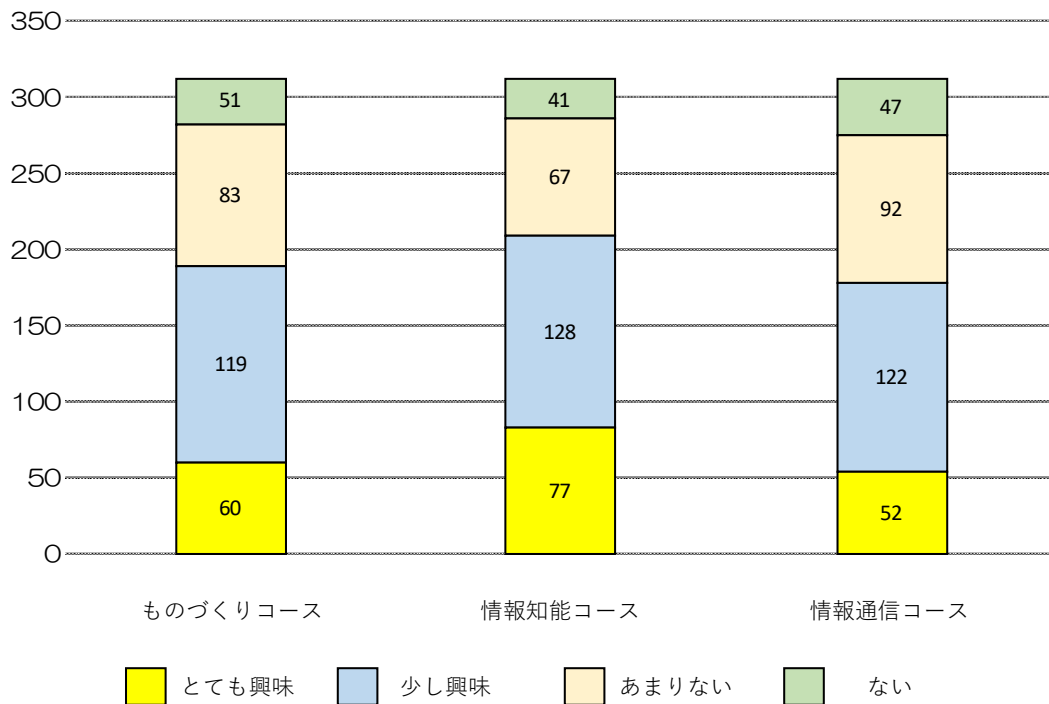


図5 中学生へのアンケート結果

在校生の新コースへの期待度

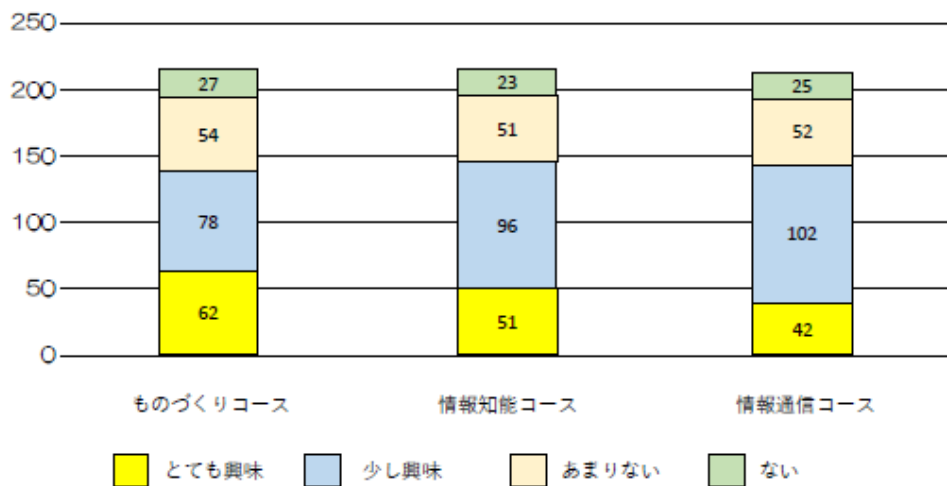


図6 在校生へのアンケート結果

⑤ 人材需要に関するアンケート調査等

愛媛県では製造分野を中心にA I や Society5. 0への対応、グローバル化が進んでおり、国内外で活躍できる技術者の育成が求められている。全国的なデジタル人材の不足
-学生確保（本文）-9

に対応するため、愛媛県デジタル人材育成推進会議を発足し、県内外でのDX人材の育成、Iターン誘致などの人材確保の取り組みがなされている。

現在、既存の電子機械工学科、情報工学科への求人倍率は14.4倍、うち6割が情報関連企業である（表3）。電子機械工学科においても情報処理技術に対する要望が高いことが伺える。2学科の卒業生の4割が情報関連の企業に就職、進学者の8割が情報系学部に進学しており、近隣企業からもDX人材へのニーズが高い。

表3 卒業生の分野別就職

区分\年度・学年	R3		R4		R5	
	M	I	M	I	M	I
卒業生	46	42	42	37	38	36
就職希望者数	36	28	31	26	33	26
就職者数	36	28	31	26	33	26
求人数	400	344	494	427	481	440
機械製造	3	0	6	4	6	1
電気・情報機器製造	10	1	9	1	8	0
輸送機器製造	6	5	5	4	6	0
その他製造	8	6	7	7	4	4
情報通信	1	6	0	7	1	12
運輸・郵便	0	0	0	0	0	0
その他	8	10	4	3	8	9
求人倍率	11.1	12.3	15.9	16.4	14.6	16.9

令和3年～5年における 平均求人倍率
14.5

※ M:電子機械工学科 I:情報工学科

一方で、全国的な情報系技術者の不足や、地元にも事業所があっても本社が都市圏に集中するため、見かけ上の地元企業への人材供給は十分とは言えない。電子機械工学科から改組する創造工学科はDXやAI活用に対応できる機械系技術者として、情報工学科は、情報系技術者としての知識を有した上で、知能情報コースは生成AIやプロジェクトを牽引する高いスキルを要する技術者として、情報通信コースはネットワークやサイバーセキュリティに対応できる技術者として、地方事業所などの人材となることが期待される。

本学の関連企業（技術振興会会員企業）に対してアンケート（設問：「御社および御社の業界において、各コースの高度な情報技術を会得した人材を社会に送り出すことは必要とお考えですか」）を実施したところ（図7）、いずれのコースにも期待が高く、企業が求める人材要請に応えられるものである。

企業へのアンケート（回答数33）

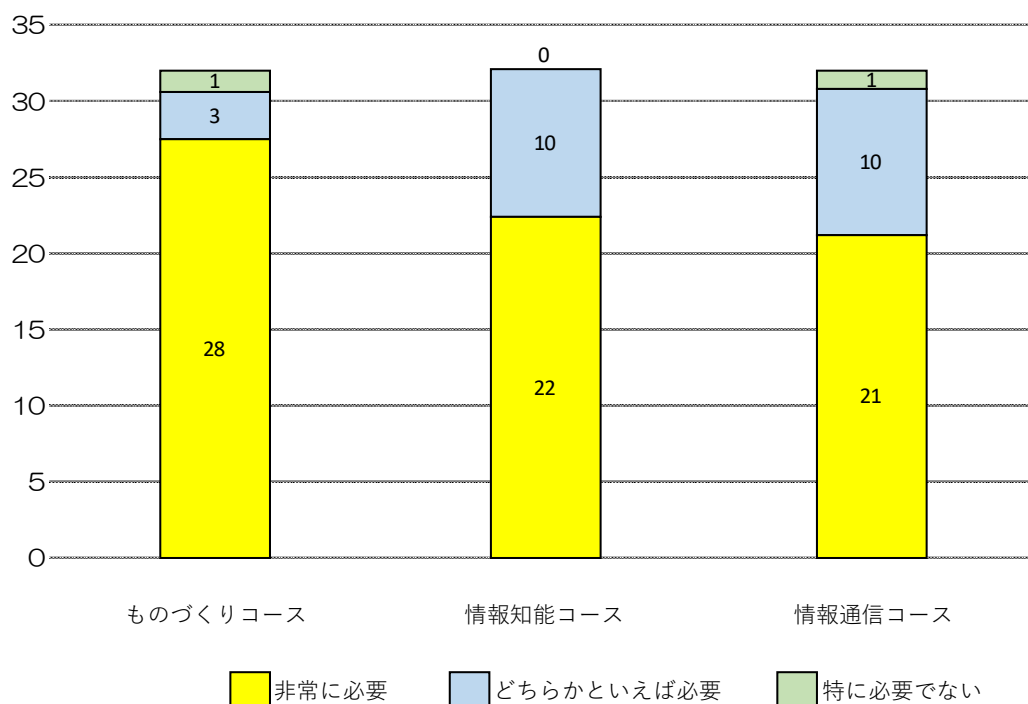


図7 企業向けアンケート

(4) 新設組織の定員設定の理由

今回の学科改組においては、機械・電気・電子系融合学科である電子機械工学科をロボティクス・DX人材養成に対応できる機械・情報系融合学科である創造工学科（ものづくりコース）として、情報系専門学科である情報工学科をAIやサイバーセキュリティに対応できる情報系人材を養成する新・情報工学科（情報知能コース、情報通信コース）として改組を行う。創造工学科はプログラミング、ロボティクスにおけるソフトウェア開発、数理データサイエンスを習得することで、高度情報に対応できる人材を養成する。

従来学科の定員は1学年あたりそれぞれ40名であり、新学科においてもこれを継続する。学科改組に伴うカリキュラムの改訂や学生指導、学校運営の効率化により、より高度な情報人材の育成に対応できるものと考えている。

学生確保の見通し等を記載した書類（資料）

目 次

新設組織が置かれる都道府県への入学状況（別紙1）…………… p. 1

既設学科等の入学定員の充足状況（直近5年間）

電子機械工学科（別紙2-1）…………… p. 2

既設学科等の入学定員の充足状況（直近5年間）

情報工学科（別紙2-2）…………… p. 3

既設学科等の学生募集のためのPR活動の過去の実績（別紙3）…………… p. 4

新設組織が置かれる都道府県への入学状況

○出身高校の所在地県別の入学者数の構成比（上位5都道府県）※直近年度

	都道府県名	人 数	構成比
1	愛媛県	9,873人	96.7%
2	愛媛県以外	336人	3.3%
3			0.0%
4			0.0%
5			0.0%
	全 体	10,209人	100.0%

※「学校基本調査」の「出身高校の所在地県別入学者数」から作成すること。

※大学、学部、学部の学科、短期大学、短期大学の学科を設置する場合や収容定員の増加に係る学則変更認可申請の場合に作成（専門職大学、専門職短期大学、高等専門学校を含む）。大学院は作成不要。

○新設組織が置かれる都道府県の定員充足状況

	新組織所在地 (都道府県)	充足率		
		令和4年度	令和5年度	令和6年度
1	愛媛県	83.37%	84.06%	83.67%
2				

※2校地で教育課程を実施する場合はそれぞれの状況を記載すること。

○新設組織の学問分野（系統区分）の定員充足状況

	系統区分	充足率		
		令和4年度	令和5年度	令和6年度
1	情報、電子・電気、機械	82.11%	81.74%	79.66%
2				

※「系統区分」は日本私立学校振興・共済事業団の「今日の私学財政」の系統区分に従うこと。

既設学科等の入学定員の充足状況（直近5年間）

別紙2-1

大学学部学科等名：弓削商船高等専門学校電子機械工学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

1. 各選抜方法の状況

		R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平均	
学校推薦型選抜	募集人数	28人	28人	32人	32人	32人	30人	
	延べ人数	志願者数	31人	25人	26人	26人	28人	27人
		受験者数	31人	25人	26人	26人	28人	27人
		合格者数	24人	23人	21人	24人	24人	23人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	31人	25人	26人	26人	28人	27人
		受験者数	31人	25人	26人	26人	28人	27人
		合格者数	24人	23人	21人	24人	24人	23人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数	24人	23人	21人	24人	24人	23人	
	一般選抜	募集人数	12人	12人	8人	8人	8人	10人
		延べ人数	志願者数	61人	32人	30人	40人	32人
受験者数			59人	31人	28人	40人	32人	38人
合格者数			32人	24人	25人	34人	20人	27人
うち追加合格者数			0人	0人	0人	0人	0人	0人
辞退者数			13人	3人	3人	12人	4人	7人
実人数		志願者数	61人	32人	30人	40人	32人	39人
		受験者数	59人	31人	28人	40人	32人	38人
		合格者数	32人	24人	25人	34人	20人	27人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	13人	3人	3人	12人	4人	7人
入学者数		19人	21人	22人	22人	16人	20人	
合計		募集人数	40人	40人	40人	40人	40人	40人
		延べ人数	志願者数	92人	57人	56人	66人	60人
	受験者数		90人	56人	54人	66人	60人	65人
	合格者数		56人	47人	46人	58人	44人	50人
	うち追加合格者数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数		13人	3人	3人	12人	4人	7人
	実人数	志願者数	92人	57人	56人	66人	60人	66人
		受験者数	90人	56人	54人	66人	60人	65人
		合格者数	56人	47人	46人	58人	44人	50人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	13人	3人	3人	12人	4人	7人
	入学者数	43人	44人	43人	46人	40人	43人	

3. 入学定員充足率

	R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平均
入学定員	40人	40人	40人	40人	40人	40人
入学定員充足率	1.08	1.10	1.08	1.15	1.00	1.08
歩留率	0.77	0.94	0.93	0.79	0.91	0.87

（備考）特記事項がある場合は記載すること。

既設学科等の入学定員の充足状況（直近5年間）

別紙2-2

大学学部学科等名：弓削商船高等専門学校情報工学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

1. 各選抜方法の状況

		R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平均	
学校推薦型選抜	募集人数	28人	28人	32人	32人	32人	30人	
	延べ人数	志願者数	29人	38人	55人	45人	55人	44人
		受験者数	29人	38人	55人	45人	55人	44人
		合格者数	26人	29人	32人	32人	33人	30人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	1人	0人	0人
	実人数	志願者数	29人	38人	55人	45人	55人	44人
		受験者数	29人	38人	55人	45人	55人	44人
		合格者数	26人	29人	32人	32人	33人	30人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	1人	0人	0人
	入学者数	26人	29人	32人	31人	33人	30人	
	一般選抜	募集人数	12人	12人	8人	8人	8人	10人
		延べ人数	志願者数	41人	38人	39人	29人	43人
受験者数			40人	35人	37人	29人	42人	37人
合格者数			26人	21人	19人	20人	24人	22人
うち追加合格者数			0人	0人	0人	0人	0人	0人
辞退者数			9人	6人	11人	8人	17人	10人
実人数		志願者数	41人	38人	39人	29人	43人	38人
		受験者数	40人	35人	37人	29人	42人	37人
		合格者数	26人	21人	19人	20人	24人	22人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	9人	6人	11人	8人	17人	10人
入学者数		17人	15人	8人	12人	7人	12人	
合計		募集人数	40人	40人	40人	40人	40人	40人
		延べ人数	志願者数	70人	76人	94人	74人	98人
	受験者数		69人	73人	92人	74人	97人	81人
	合格者数		52人	50人	51人	52人	57人	52人
	うち追加合格者数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数		9人	6人	11人	9人	17人	10人
	実人数	志願者数	70人	76人	94人	74人	98人	82人
		受験者数	69人	73人	92人	74人	97人	81人
		合格者数	52人	50人	51人	52人	57人	52人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	9人	6人	11人	9人	17人	10人
	入学者数	43人	44人	40人	43人	40人	42人	

3. 入学定員充足率

	R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平均
入学定員	40人	40人	40人	40人	40人	40人
入学定員充足率	1.08	1.10	1.00	1.08	1.00	1.05
歩留率	0.83	0.88	0.78	0.83	0.70	0.80

（備考）特記事項がある場合は記載すること。

既設学科等の学生募集のためのPR活動の過去の実績

別紙3

①募集を行った学科等名称及び取組の名称：弓削商船高等専門学校オープンキャンパス（全学科）

	R5年度入試	R6年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数(a)	337人	334人	①取組概要 受験を検討している生徒、保護者等を対象として、学科イベント、弓削丸体験乗船、寮見学、進路相談などを実施。 R5年度入試対象（R4開催）：第1回（7/23、7/24）、第2回（9/4オンライン）、第3回（11/5、11/6） R6年度入試対象（R5開催）：第1回（7/22、7/23）、第2回（9/3オンライン）、第3回（11/3、11/4） ②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 オープンキャンパスに参加する3学科（商船学科、電子機械工学科、情報工学科）の割合は、約4割、2割、4割であり、商船学科と情報工学科の人气が高くなっている。新設の創造工学科（旧電子機械工学科）は、定員数を変えずに高度情報専門人材の対象としている。創造工学科の人気の高まりにより、十分な入学者の確保が見込まれる。
うち受験対象者数(b)	258人	267人	
うち受験者数(c)	155人	167人	
うち入学者数(d)	111人	105人	
(受験率 c/b)	60.1%	62.5%	
(入学率 d/b)	43.0%	39.3%	

②募集を行った学科等名称及び取組の名称：中学校が開催する進路説明会への参加（全学科）

	R5年度入試	R6年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数(a)	2318人	2181人	①取組概要 各中学校が開催する進路説明会に参加し、本校の特色等について説明。 R5年度入試対象：30校（R4.2～R4.11） R6年度入試対象：30校（R5.3～R5.11） ②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 中学校が開催する進路説明会への参加者数は、これまで減少することなく、毎年同程度かわずかに増加している。多くの進路説明会では、受験対象者とその保護者に説明を行うことが可能であり、新設される高度情報専門人材の育成に関する解説を通じて、進路の選択肢の一つとなるだけでなく、オープンキャンパスへの参加者の増加も期待される。
うち受験対象者数(b)	2318人	2181人	
うち受験者数(c)	93人	91人	
うち入学者数(d)	62人	52人	
(受験率 c/b)	4.0%	4.2%	
(入学率 d/b)	2.7%	2.4%	